

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月4日(木)

《「悔い改め」は、「イエス様を愛すること」》

子どもを育てていた頃、子どもが迷子になってしまったことがありましたか。5～6歳の子どもを連れてどこかへ出かけ、子どもとはぐれてしまい、心配した経験はありますか？子どもとはぐれた経験のない方は、その気持ちを想像してみてください。目に入れても痛くないくらい愛している子どもが迷子になった時、皆様の心はどうなるでしょうか。私も小学生の頃、幼かった妹を連れて親戚の家へ行く途中、妹とはぐれてしまい、16時間くらい捜したことがあります。その時は、とても大変でした。自分が叱られることより妹のことだけが心配で、どうしてよいか分かりませんでした。恥ずかしいとも思わずに、いろいろな人に大きい声で妹を見なかったかと訊ね、警察にも行き、とまどいながら、「捜してください」と頼みました。

今日の福音(ルカ 15:1-10)の、99匹の羊を残して見失った1匹の羊を捜しに行く牧者、すなわちイエス様が私達を見ている心も同じなのだろうと思います。この世を作り、神様の子として幸せに生きてほしいと思いながら人間に命を与えたのに、その子ども達は迷ってばかりです。子どもが迷子になってしまった親の心を考えれば、いつも道を外れて、別の方向に行ってしまう私達を見ているイエス様の心、御父の心が、どのくらい痛いのか、想像出来るのではないかと思います。

もちろん神様は、99人の正しい人に対しても喜ばれます。しかし、それ以上に1人の罪人が悔い改めることをイエス様、神様はもっと喜ばれることをこの福音は表しているのです。

今日の福音を読んで、私が自分なりに考えたのは、『悔い改め』という言葉と別の言葉で言うと『イエス様を愛すること』になるのではないかと、ということです。いろいろな悔い改めがあると思いますが、私は、神様を心から愛することができれば、それが本当の悔い改めになるのではないかと思います。私たちは、口ではいつも「神様を愛しています」と言っていますが、心ではよく分かっていません。しかし、説明はできなくても、心で「本当に神様を愛している」という確信ができれば、その人はもう悔い改めが出来ているのだと思います。

以前にも申し上げたことがありますが、99匹の羊より、見失った1匹の羊が私達によく似ています。そういう意味で、今日の第一朗読(フィリピ 3:3-8a)の最後にパウロはこのように話されましたね。

「わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。」

この言葉はどういう意味でしょうか。この部分の前には「わたしはヘブライ人の中のヘブライ人です。」「ファリサイ派の一員でした。」「律法の義については非のうちどころのない者でした。」という話があります。しかし、キリストがどういう方であるか分かってからは、今まで自分が誇りと思ってい

た全てのものがごみのようにになりました、という告白です。

日本語の訳は理解しにくいのですが、言葉は簡単です。今まで誇りとしてきたもの、求めてきたものを、キリストの教え以外は全ていらぬものとして私は受け入れます、という意味です。「使徒パウロの回心」と言う言葉も、同じ意味でしょう。彼がイエス様に出会って本当に悔い改められたこと、回心したことは、このような形として現れたのだと思います。

もし私達が、イエス様、神様に対して慕う心、愛する心、願う心があまり強くなければ、まだ私達には悔い改める道が残っているのではないかと思います。

ありがとうございました。